



PIANC 125th Anniversary Celebration in Asia

国際航路協会 アジア地区125周年

記念事業報告書



Organizing Committee for
PIANC 125th Anniversary Celebration in Asia

国際航路協会アジア地区125周年記念事業実行委員会

実施事業概要

- 1 開催期間：平成22年9月10日(金)～14日(火)
- 2 開催場所：愛知県名古屋市(ウエスティンナゴヤキャッスル名古屋港湾会館)
- 3 主催：国際航路協会アジア地区125周年記念事業実行委員会
- 4 開催目的：国際航路協会は港湾・航路等の技術的課題に関する調査研究、開発途上国への技術援助など、幅広い活動を行う非政治的・非営利な国際機関であり、内陸港及び海洋港の航路、港湾施設の設計、建設、改良、維持及び運営に関する技術的課題の検討等を行っています。
平成22年は国際航路協会設立125周年にあたり、世界各地で記念行事を開催しており、日本はアジア地域代表として、アジア各国の港湾関係者との国際セミナーを通じた意見交換を行うと共に友好関係の増進に努め、アジアにおけるPIANC活動振興を図ることを目的としています。

目次

| | |
|-----------------------------|-----|
| 実施事業概要 | P1 |
| 全体プログラム | P2 |
| 記念式典 | P3 |
| 国際セミナー1 | P9 |
| 国際セミナー2 | P10 |
| 港湾視察・文化体験 | P11 |
| RecCom、ExCom、Council | P12 |
| 晩餐会・送別会 | P13 |
| 告知 | P14 |
| 記念式典記念品 | P15 |
| 国際航路協会アジア地区125周年記念事業実行委員会名簿 | P16 |
| 寄附・協力企業及び団体等 | P17 |

巻頭カバー：Port of Nagoya 銅版画家 坪内好子氏

全体プログラム

- 平成22年9月10日(金)
 - 10:00-17:00 国際航路協会 レクリエーション委員会(名古屋港湾会館)
- 平成22年9月11日(土)
 - 10:00-17:00 国際航路協会 執行委員会(名古屋港湾会館)
- 平成22年9月12日(日)
 - 10:00-12:00 国際航路協会125周年記念式典(ウエスティンナゴヤキャッスル)
 - 開会挨拶
 - 歓迎挨拶
 - お言葉
 - 特別講演
 - 名古屋宣言
 - 閉会挨拶
 - 12:00-13:30 昼食
 - 13:30-17:00 国際セミナー1(ウエスティンナゴヤキャッスル)
 - 18:00-20:00 歓迎晩餐会(ウエスティンナゴヤキャッスル)
- 平成22年9月13日(月)
 - 9:30-12:30 国際セミナー2(名古屋港湾会館)
 - 12:30-14:00 昼食
 - 14:00-18:00 国際航路協会 評議会(名古屋港湾会館)
 - 19:00-21:30 晩餐会(名古屋港水族館)
- 平成22年9月14日(火)
 - 9:30-16:00 港湾視察・文化体験
 - 名古屋城
 - 港湾視察「フェリーきたかみ」
 - トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館
 - 18:00-20:00 送別会(徳川美術館)

記念式典

皇太子殿下お言葉



国際航路協会アジア地区125周年記念事業が、ここ名古屋において開催されるに当たり、会員各国の代表を始め、国内外の会員の皆さんと共に、出席できることをうれしく思います。

国際航路協会は、1885年の創設以来、長年にわたり、航路、港湾、漁港及び沿岸域の開発と運営に関する技術の向上を通じて、船舶の航行と水上輸送の発達を図り、世界の発展のために大きな役割を果たしてきました。ここに関係者の皆さんの熱意と努力に対し、深く敬意を表します。

私自身、1990年に大阪で開催された国際航路会議に出席し、オックスフォード大学留学時代に研究した18世紀当時のテムズ川の河川改修、船の運航に携わった人々、当時テムズ川を行き交った石炭と農産物等の物資など、水運と人とのかかわりについてお話ししました。

また、2009年にイスタンブールで開催された第5回世界水フォーラムでは、国際航路協会特別セッションに参加しましたが、舟運が省エネルギーで持続可能な輸送システムの構築と気候変動の緩和にどのように貢献できるのかについて、熱心な議論がなされていたことを思い出します。

近年、海上輸送量の増大に伴って、コンテナ船を始めとする船舶は大型化し、それに伴うパナマ運河の拡張等、港湾・航路を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような中で、国際航路協会は125周年という新たな節目を迎えます。海と水路で結ばれた世界各国の皆さんが、輸送の革新や環境問題への取組を通じて国際的に連携することにより、国際航路協会がその目的に向かって更に着実な歩みが続けていくことを期待しております。

終わりに、この記念事業を通じて、アジア各国の港湾関係者の相互理解と友好が更に深まるとともに、国際的な水運の取組が世界の発展に貢献することを願い、私のあいさつといたします。



式次第

- 1 開会挨拶
実行委員会名誉会長：国土交通大臣
前原 誠司
- 2 来賓挨拶
国際航路協会会長
エリック ヴァン デネーデ
- 3 歓迎挨拶
実行委員会名誉顧問：愛知県知事
神田 真秋
実行委員会名誉顧問：名古屋市長
河村 たかし
- 4 お言葉
皇太子殿下
- 5 特別講演
「国際航路協会125年の歴史を振り返って」
国際航路協会会長
エリック ヴァン デネーデ
- 6 国際航路協会アジア地区 125 周年記念事業
名古屋宣言
実行委員会会長：国土交通省港湾局長
林田 博
- 7 閉会挨拶
実行委員会名誉副会長：農林水産副大臣
篠原 孝

開会挨拶



実行委員会名誉会長：国土交通大臣
前原 誠司

本日ここに皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、デネーデ国際航路協会会長をはじめとする世界 41 カ国からの代表並びにわが国関係各界の方々のご出席の下に、国際航路協会アジア地区 125 周年記念式典が開催されるにあたり、日本国を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、最初に、世界各国からはるばるご来日頂きました皆様を心から歓迎いたします。歴史と伝統を誇る国際航路協会の 125 周年記念事業が日本で開催される運びとなりましたことは、わが国政府として、大変光栄に存する次第です。

世界経済は、アジアを中心とした国々の成長が著しく、また、グローバル化がますます進展しております。これに伴う人、モノ、情報の流れが飛躍的に増大しつつあるなか、国と国との交流・交易を円滑に展開していくことが、世界全体の経済成長に大きく寄与するものと考えております。従って、これを支える港湾、海運の更なる発展が、次世代に向けた成長の「鍵」を握っていると言っても過言ではありません。

このような状況の中で、国際航路協会が、港湾や航路の整備あるいは運営に関わる諸課題の解決や技術基準の国際標準化へ取り組むとともに、地球温暖化対策としての環境問題などへも積極的に取り組んでおられることに敬意を表します。

島国である我が国にとって、港湾や航路は、古来より世界の国々とわが国を結ぶ不可欠な絆です。1908 年の初参加以来、我が国はその整備や運営について、国際航路協会から様々なことを学んで参りました。今後は、わが国がこれまで培ってきた港湾及び航路に関する知見をもって、アジアに、そして世界に貢献して参りたいと考えております。

特に、本記念事業におきましては、アジア各国の港湾、航路等の現状を報告し、意見交換を行う国際セミナーを開催いたします。成長するアジア諸国が、今後さらに国際社会の発展に貢献していくにあたり、本記念事業が大きな契機となることを確信しております。

さらに、本記念事業に併せ、日本文化についての紹介も行わせていただきます。この機会を通じて、わが国を一層知っていただき、交流がさらに深まることを期待しております。

本記念事業の開催に至るまでに、国際航路協会を始めとして、国内外の関係各機関の皆様方に甚大なるご協力を頂いたことに対し、心からお礼を申し上げ、私のごあいさつとさせていただきます。

記念式典

来賓挨拶



国際航路協会会長
エリック ヴァン デネーデ

皇太子殿下、皆様の前で、国際航路協会を代表してお話しできることを誠に光栄に存じます。

特に、皇太子殿下のご出席により、このオープニングセレモニーと記念事業全体が栄えある物となるでしょう。

国際航路協会は過去に皇太子殿下がお示しになられたご興味を大変ありがたく感じております。我々の多くは、1990年に大阪で開催された第27回コンgresにおいて、皇太子殿下が、18世紀におけるもっとも重要なイギリスの河川航行についてお話になられた「航路としてのテムズ川」と題された特別講演をまだ鮮明に覚えています。

皇太子殿下はまた、2003年の京都や2009年のイスタンブールで開催された「世界水フォーラム」においても、環境に優しい輸送モードについての特別技術セッションにもご出席されるなど、内陸水運にご興味を示されています。

私はまた、この機会に、当協会に絶え間ない協力をしてくださった日本政府にも改めて御礼を申し上げます。日本部会は紛れもなくもっとも活発にPIANC活動を行っている各国部会のうちの一つでしょうし、ほぼすべての委員会やワーキンググループにメンバーを参加させています。日本の協力が無ければ、当協会の将来は無いでしょう。

私が125周年記念イベントを全大陸で開催しようとするアイデアを発したとき、日本はこの美しく重要な都市である名古屋で、アジア地区記念事業を開催するべく手をあげてくれました。名古屋の前には125周年記念事業は、プエノスアイレスとリハプールで開催されています。残念ながら南アフリカでの記念事業はキャンセルされてしまいました。

この3つの重要なイベントのほか、当協会の豊かな歴史が概観できる、ヒストリーブックが編纂されました。この本はオランダのプロスマ氏のリーダーシップの下、当協会のシニアメンバー達によって、書かれています。日本は当協会の元副会長でもある野田氏が参加し、彼の貢献に深く感謝したいと思います。このヒストリーブックは今年5月のリハプールでのコンgresにて皆さんに配付され、来月、国際航路協会の全会員に郵送される予定です。後ほど、当協会の歴史について重要な出来事のみならず、将来展望についてもご紹介させていただきます。

私は日本でのこの125周年記念事業が大成功に終わると確信しています。東アジアや東南アジア諸国からの参加による国際セミナーや技術・文化ツアー、同伴者ツアーは国際航路協会の歴史において重要な一里塚として間違いなくこれからの記憶に残ることでしょう。私はここで、この125周年記念事業は日本で開催された、1978年の東京総会、1990年の大阪コンgres、2004年の福岡総会に続く、4つ目の大イベントであることを申し上げたい。大阪コンgresはもっとも成功した、威信のあるコンgresであったとして、今でも広く認識されています。

皇太子殿下、そしてご列席の皆様、私は国際航路協会が将来の困難に向かって立ち向かう準備ができていることをお約束したい。当協会の新しい戦略計画は、常勤化される事務総長と、やる気のある執行委員会メンバーとスタッフ、そしてもちろん来年選ばれる新しい会長の新しい体制にスムーズに移行し、世界における航行社会の利益のため、水上交通インフラの国際機関として国際航路協会の認知度と影響力を向上し続けます。

国際航路協会 万歳!
ご静聴ありがとうございました。



歓迎挨拶



実行委員会名誉顧問：愛知県知事
神田 真秋

本日ここに、皇太子殿下のご臨席を賜り、かくも盛大に「国際航路協会アジア地区125周年記念事業」の記念式典が挙行されますことを心よりお喜び申し上げます。

PIANC 会長のエリック・ヴァン・デネーデ氏をはじめ加盟国、会員の皆さま方のご協力により、国際航路協会が設立125周年を迎えられましたことをお祝い申し上げますとともに、アジア地区における記念事業が日本そして愛知県で開催されることを大変光栄に感じております。

愛知県は、自動車、工作機械、航空宇宙産業などが集積しており、まさに世界的な「モノづくりの拠点」となっております。こうした「モノづくり産業」が着実に発展するためには、物流が不可欠であり、港湾・航路における水上交通の維持・発展の重要性を深く認識しているところであります。

また、愛知県では、このような産業が集積する一方で、県内に4つ国定公園が指定されているなど、豊かな自然に恵まれた地域であるとともに、花木をはじめとする農業産出額が全国トップレベルであり、全国有数の農業県でもあります。

ところで、おいでいただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、愛知県で2005年に国際博覧会を開催させていただきました。それから5年後の節目となる今年は、いくつかの大きなプロジェクトが実を結ぶ年であります。

まず、「産業」「自然」に併せ新たに「文化芸術」という地域発展の軸をつくるため、先月より、最先端の現代アートの動向を、この愛知から世界へと発信する国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」を開催しております。今後3年ごとに定期的に開催していくこととしておりますが、記念すべき第一回目となる今回は、「都市の祝祭 Arts and Cities」をテーマに、国際芸術展や舞台公演が行われます。皆様方もこの機会に是非、世界最先端の現代アートを楽しんでいただければと思います。

今年は、トリエンナーレばかりでなく、今回のPIANC125周年記念事業や10月には2つ目のプロジェクトである「生物多様性条約第10回締約国会議いわゆるCOP10」が開催されるなど、国内外から多くの方々にお越しいただく機会が多くあります。こうした機会にご来県された方には、是非とも産業・自然・歴史、そして新しい文化といった「愛知の魅力」を直接感じていただきたいと考えております。

最後に、国際航路協会のさらなる発展を祈念いたしますとともに、ご列席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

歓迎挨拶



実行委員会名誉顧問：名古屋市長
河村 たかし

本日ここに、皇太子殿下のご臨席を賜り、盛大に「国際航路協会アジア地区125周年記念事業」の記念式典が挙行されますことを心よりお喜び申し上げます。

私は名古屋港管理組合の管理者も務めさせていただいており、港湾に携わる者として、港湾・航路等の整備による水上交通の維持・発展に貢献する世界的な機関へと成長され、本年で125周年を迎えられましたPIANCの記念事業が、ここ名古屋で開催されますことを大変光栄に存じます。

名古屋港は1907年に開港し、この地域の海の玄関口として着実な発展を続け、現在では世界150の国・地域と結ばれる日本一の貿易港に成長いたしました。当港は、日本の真ん中に位置する地理的な優位性や、背後の国際的な産業の集積、さらには「民間」の力を活用したターミナル運営などのポテンシャルを活かし、輸出入双方でモノの流れを増加させる「国際産業ハブ港」の形成を目指しております。PIANCの皆様方には、当港の国際的な物流機能の強化に向け、今後ともご支援、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、名古屋のまちづくりは、1610年の名古屋城築城と清須越に始まり、本年は名古屋開府400年の節目の年でございます。本市では、これを記念して、「名古屋開府400年祭」を一年を通じて開催しており、また、10月には「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が開催されるなど、本年は名古屋が日本中、世界中から注目される年でございます。

市内には、この会場からもご覧いただけます名古屋城をはじめ、1900年の歴史を有する熱田神宮など、歴史的・文化的資産も豊富にございます。ご滞在中は、これら名古屋の街の魅力も充分にお楽しみいただければ幸いです。

改めまして、PIANC設立125周年をお祝い申し上げますとともに、本記念事業のご成功とご臨席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。

ありがとうございました。

記念式典

名古屋宣言

Nagoya Declaration

まず、はじめに、国際航路協会アジア地区125周年記念事業実行委員会として、皇太子殿下のご臨席及び国際航路協会会長のエリック・ヴァン・デネーデ氏をはじめとするみなさまのご参加に心より感謝申し上げます。

The Organizing Committee for the PIANC 125th Anniversary Celebration in Asia, in Nagoya, Aichi, Japan on 12 September 2010, Takes special pleasure in welcoming His Imperial Highness, Expresses its deepest gratitude to Mr. Eric Van Den Eede, the President of PIANC, and to the many other honored participants for attending this event.

さて、これまで国際航路協会が、125年の永きにわたり、水上交通の維持・発展を推進することにより、国際社会の経済的かつ文化的な発展に寄与してきたことに深く敬意を表したいと思えます。

Notes the outstanding contribution of PIANC toward sustainable economic and cultural development by promoting maintenance and advancement of waterborne transport over the past 125 years,

また、国際航路協会が、エネルギー効率に優れ、環境に優しい沿岸・内陸水運の活用による地域振興や、地球温暖化対策、海域環境の改善などの地球環境問題に積極的に取り組まれてきたことに賛同致します。

Endorses active efforts by PIANC in developing energy-efficient and environmentally friendly coastal and inland waterborne transport, and for addressing vital environmental issues such as global warming and the improvement of the marine environment, and

さらに、経済発展の著しいアジアと世界を結びつける海運の重要性がますます高まっている状況の中で、国際航路協会アジア地区125周年記念事業が開催されることを契機とし、アジアにおける国際航路協会の活動の更なる拡大を通じて、今後の国際社会の発展に一層貢献することを宣言します。

Declares its intention to further contribute to the world's development through expanded PIANC activities in Asia, taking this opportunity to host the PIANC 125th Anniversary celebration in Asia in a situation that significance of waterborne transport has been increased in supporting Asia's remarkable economic growth and connection with the rest of the world.

平成22年9月12日 国際航路協会アジア地区125周年記念事業実行委員会
Nagoya, Aichi, JAPAN, 12th September 2010

特別講演



閉会挨拶

実行委員会名誉副会長：農林水産副大臣
篠原 孝

ご参会の皆様、国際航路協会アジア地区 125 周年記念式典を終了するに当たり、実行委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

まず、本日、皇太子殿下をお迎えし、盛大に記念式典が開催出来ましたことを、皆様と共に喜びたいと思えます。また、国際航路協会会長のエリック・ヴァン・デネーデ氏からの「国際航路協会 125 周年を振り返って」のご講演は本記念事業にとり誠に意義深いものでした。心からお礼申し上げます。

我が国は四方を海に囲まれ、海上交通や水産業が発達し、沿岸各地には、多数の港湾・漁港が形成され、地域社会の発展に貢献して参りました。また、地球環境問題への対応が重要な課題となっている中で、我が国においても、多様な生物を育むなど重要な役割を果たしている海洋環境の保全に積極的に取り組んでいるところです。

この記念式典終了後、国際セミナーが2日間にわたり開催され、今日の港湾・漁港・航路に関する重要な課題である「沿岸・内陸水運と地域振興」、並びに、「浚渫と環境」に関して発表・討論が行われる予定です。アジアを中心として世界各地から集まった人々が、これらの課題について討議されることは、今後の世界のこれらの分野に関する技術の向上、並びに港湾・漁港・航路の果たすべき役割への理解を深める上で、大変意義あることと考えられます。

会議参加者の皆様におかれましては、本記念事業を通じて参加各国の相互理解と国際協力の推進を図られることを期待いたします。終わりに、国際航路協会の更なる発展を祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

国際セミナー1

1 開会挨拶

川嶋 康宏氏
(国際航路協会日本部会長・
国際航路協会副会長)



2 コーディネーター挨拶

池田 龍彦教授
(横浜国立大学国
際社会科学部研究科長)



3 発表

- 1) イアン・ホワイト氏 国際航路協会内陸航路委員会委員長
「内陸水運の利点について」
- 2) チャン・ティ・トゥエット・マイアイン氏 ベトナム海事庁国際協力局副局長
「メコン川の内陸水運について」
- 3) ロス・ソッポーナ氏 カンボジア公共事業・運輸省水路局長
「カンボジアにおける水運の現状について」
- 4) ヴァントーグ・ソムパヴァット氏 ラオス公共事業・運輸省水路局副局長
「メコン川の内陸水運とその地域振興効果について」
- 5) 朴 俊権氏 韓国国土交通海洋部港湾開発政策局港湾政策課長
「韓国の港湾政策について」
- 6) 趙 一飛氏 中国上海交通大学造船・海洋・土木学部国際海運専攻副専攻長
「長江デルタにおける海上—河川水運の開発について」
- 7) 赤倉 康寛氏 国土技術政策総合研究所港湾研究部港湾計画研究室長
「日本における沿岸輸送の発展と最近の情勢について」

4 発表者とコーディネーターによるディスカッション

5 フロアからの質問

6 コーディネーターによるディスカッションとりまとめ・閉会



国際セミナー2

1 開会挨拶

山田 孝嗣氏
(名古屋港管理組合専任副管理者)



2 コーディネーター挨拶

中村 由行氏
(港湾空港技術研究所研究主監)



3 発表

- 1) ハロルド・コーテ氏 国際航路協会環境委員会 (PIANC EnviCom) 委員長
「浚渫と環境—優良事例による国際的指針」
- 2) ジェフロイ・コーデ氏 国際航路協会海港委員会 (PIANC MarCom) 委員長
「浚渫と環境—海港委員会における取組」
- 3) 中田喜三郎氏 東海大学海洋学部環境情報工学科教授
「日本における浚渫土砂を利用した環境修復の取り組みについて」
- 4) 尹吉林氏 韓国海洋研究院 (KORDI) 責任研究員
「韓国海洋汚染防止法の改正と浚渫における環境配慮の取り組みについて」
- 5) 朱剣飛氏 中国交通運輸部長江口航道管理局科学研究管理部長
「長江河口の大水深航路開発プロジェクトにおける浚渫施工と環境保護」
- 6) リチャード・ホースト・リノ氏 インドネシア国営港湾プラブハン・インドネシア (ペリンド) II 社長
「バンジャルマシン市トリサクティ港の成功事例」

4 発表者とコーディネーターによるディスカッション

5 フロアからの質問

6 コーディネーターによるディスカッションとりまとめ・閉会



港湾視察・文化体験

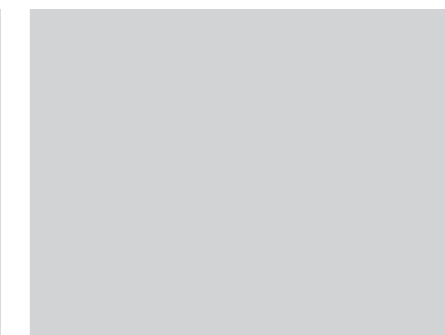
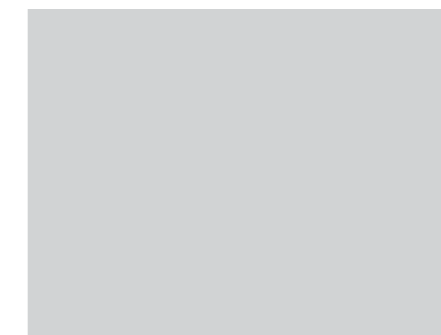
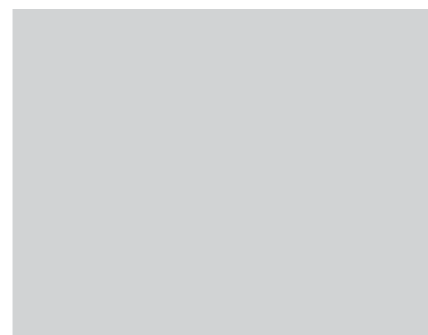


RecCom, ExCom, Council

● RecCom



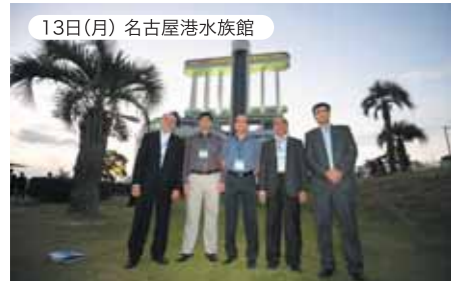
● ExCom



● Council

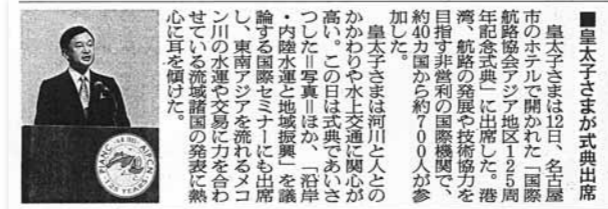


晩餐会・送別会

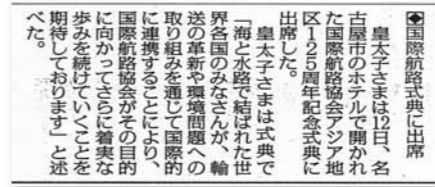


告知

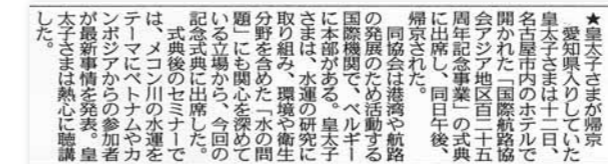
● 新聞記事



2010年(平成 22年)9月 13日(月曜日) 朝日新聞 夕刊



2010年(平成 22年)9月 13日(月曜日) 毎日新聞 夕刊



2010年(平成 22年)9月 13日(月曜日) 中日新聞 夕刊



2010年(平成 22年)9月 13日(月曜日) 中日スポーツ

125周年を機に一層の社会貢献誓う 名古屋で記念式典

【中部】 港湾・航路などの技術的課題に関する調査研究や開発途上国への技術援助を行っている国際機関の国際航路協会(PIANC、本部・ベルギー)は12日、名古屋で「国際航路協会アジア地区125周年記念式典」を開いた。式典には、皇太子さまが臨席された。

式典で皇太子さまは、近 じて国際的に連携すること、年、海上輸送量の増大により、同協会がその目的、コンテナ船をはじめと に向かっている。着実な歩 する船舶は大型化し、それ を続けていくことを期待 に伴うパナマ運河の拡張な す。と述べ、この記念事 と、港湾・航路を取り巻く 業を通し、アジア各国の 環境が大きく変化してい 港湾関係者の相互理解と友 る。このようなか中、国際 好がさらに深まるとも 航路協会は125周年とい に、国際的な水運の取り組 う新たな節目を迎える。海 みをさらに進め、アジア と水路で結ばれた世界各 ことを「増上」と述べた。 真(壇上、中央) 1990年に大阪で開催 された第1回国際航路会議 路としてのテーマと題し の際にも、皇太子さまは航 特別講演を行われてい る。

国際航路協会アジア地区 皇太子さま臨席、「着実な歩み期待」

諸国が、今後さらに国際社 会発展に貢献していくに あたり、大きな契機となる 区125周年記念事業は 12日から14日まで開催され こと確保する一方を込 めた。

国際航路協会のエリック・ パン・デネーナ会長は、 「日本部会は各団体のう ち、最も活発に活動してい る。すべての委員会やワー キンググループに参加して いる。日本の協力がなければ PIANCの将来はない」と 述べ、日本が協会の発展に 貢献することを期待した。

また、皇太子さまは、 「 皇太子さまは、12日、名 古屋市のホテルで開かれ た国際航路協会アジア地 区125周年記念式典に 出席した。

皇太子さまは式典で、 「海と水路で結ばれた世 界各国のみならず、輸 送の革新や環境問題の 取り組みを通じて国際的 に連携することにより、 国際航路協会がその目的 に向かってさらに着実な 歩みを続けていくことを 期待しております」と述 べた。

皇太子さまが東京 愛知入りしていた 皇太子さまは12日、名 古屋市内のホテルで 開かれた「国際航路協 会アジア地区125周 年記念式典」の式典 に出席し、同日午後 帰京された。

同協会は港湾や航路 の発展のため活動する 国際機関で、ベルギー に本部がある。皇太子 さまは、水運の研究に 取り組み、環境や衛生 分野を含めた「水の問題」にも関心を深めて いる立場から、今回の 記念式典に出席した。

式典後のセミナーで は、メコン川の水運を テーマにベトナムやカ ンボジアからの参加者 が最新事情を発表。皇 太子さまは熱心に聴講 した。

国際航路協会創立125周年 記念式典であり、皇太子 さまは「名古屋西地区 ウェスティンナゴヤキャッ スル」で

「国際的連携を皇太子さま式典であいさつ」 皇太子さまは12日、名 古屋市のホテルで開かれ た国際航路協会の創立1 25周年記念式典に出席 して、あいさつされた。

「ここで、協会が着実な 歩みを続けていくこと を期待します」と述べ ました。

協会は航路や港湾に関 する技術的課題を研究 するための国際機関で、 式典には米国やベトナム など約40カ国から約70 0人が参加。14日までセ ミナーや港湾視察などの 記念事業を行う。

皇太子さまは式典後、 水運と地域振興をテーマ にしたセミナーを聴き、 12日午後帰京した。

国際航路協会は1985 年設立で、現在61国から 約450の団体会員と約2 000人の個人会員が加 盟。日本では国交省港湾局 が政府会員として、日本部 会に名古屋管理組合は 拡大を通じて、今後の国際 社会の発展に一層貢献す 者などが加盟している。

「国際航路協会アジア地 区125周年記念事業」は 12日から14日まで開催され こと確保する一方を込 めた。

期間中は日本、中国、 韓国、ベトナム、カンボジ ア、インドネシア、ラオス などの運輸行政担当者や学 識経験者が出席し、「沿岸・ 内陸水運と地域振興」を深 くと連携をテーマにしたセ ミナーを開いた。沿岸・内 陸水運が地域振興に果たし ている役割や、アジア諸国 の連携と環境に関する取り 組みについて講演や意見交 換などが行われた。

国際航路協会は1985 年設立で、現在61国から 約450の団体会員と約2 000人の個人会員が加 盟。日本では国交省港湾局 が政府会員として、日本部 会に名古屋管理組合は 拡大を通じて、今後の国際 社会の発展に一層貢献す 者などが加盟している。

2010年(平成 22年)9月 16日(木曜日) 日本海新聞

記念式典記念品

● コンgressバック、記念品



● バインダー



● 扇子



● 参加証

国際航路協会アジア地区125周年記念事業実行委員会名簿

(平成22年9月12日現在)

| 役 職 | 団 体 名 | 氏 名 |
|-------|--|---|
| 名誉会長 | 国土交通大臣 (現 : | 前 原 誠 司 |
| 名誉副会長 | 農林水産副大臣 | 篠 原 孝 |
| 名誉顧問 | 愛知県知事 名古屋市長 | 神 田 真 秋 河 村 たかし |
| 会 長 | 国土交通省 港湾局長 | 林 田 博 |
| 副 会 長 | 水産庁 次長 名古屋港管理組合 専任副管理者 国際航路協会日本部会 会長 | 山 下 潤 山 田 孝 嗣 川 嶋 康 宏 |
| 委 員 | 国土交通省 大臣官房 技術参事官 国土交通省 中部地方整備局 局長 国土交通省 中部地方整備局 副局長 国土交通省 国土技術政策総合研究所 副所長 独立行政法人 港湾空港技術研究所 理事長 水産庁 漁港漁場整備部長 交通政策審議会港湾分科会 会長 (社)日本港湾協会 会長 (社)日本船主協会 会長 (社)日本港運協会 会長 (社)日本埋立浚渫協会 会長 (社)全国漁港漁場協会 会長 (社)中部経済連合会 会長 名古屋商工会議所 会頭 (財)国際臨海開発研究センター 理事長 (財)沿岸技術研究センター 理事長 (財)港湾空間高度化環境研究センター 理事長 (財)港湾空港建設技術サービスセンター 理事長 (財)漁港漁場漁村技術研究所 理事長 | 山 縣 宣 彦 富 田 英 治 岩 立 忠 夫 松 本 清 次 金 澤 寛 橋 本 牧 黒 田 勝 彦 栢 原 英 郎 宮 原 耕 治 久 保 昌 三 村 重 芳 雄 田 中 潤 兒 川 口 文 夫 岡 田 邦 彦 黒 田 秀 彦 小 原 恒 平 夫 大 村 哲 夫 広 瀬 宗 一 影 山 智 将 |
| 監 事 | 国際港湾協会日本会議 会長 国際港湾交流協力会 会長 | 染 谷 昭 夫 西 田 幸 男 |

寄附・協力 企業及び団体等

(あいうえお順:敬称略)

(あ) _____

愛知県
株式会社 I d e s

(い) _____

伊勢三河湾水先区水先人会
伊勢湾海運株式会社
特定非営利活動法人伊勢湾フォーラム

(え) _____

株式会社エコー

(お) _____

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

(か) _____

外国船舶協会
社団法人海洋調査協会
株木建設株式会社

(き) _____

北日本港湾コンサルタント株式会社
財団法人漁港漁場漁村技術研究所
漁港漁場新技術研究会

(こ) _____

社団法人港湾荷役機械システム協会
五洋建設株式会社

(し) _____

シバタ工業株式会社
清水建設株式会社

(す) _____

社団法人水産土木建設技術センター
住友ゴム工業株式会社

(せ) _____

西武ポリマ化成株式会社
社団法人全国漁港漁場協会
全国浚渫業協会

(い) _____

全国浚渫業協会東海支部
全国ポンプ・圧送船協会
セントラルコンサルタント株式会社
全日本漁港建設協会

(た) _____

大成建設株式会社名古屋支店
株式会社竹中土木
玉野総合コンサルタント株式会社

(ち) _____

中電技術コンサルタント株式会社
中部沿海海運組合

(と) _____

東海市
東海倉庫協会
株式会社東光コンサルタンツ
トヨタ自動車株式会社
株式会社ドラムエンジニアリング

(な) _____

名古屋海運貨物取扱業会
名古屋海運協会
名古屋外国船主代理店会
名古屋港運協会
名古屋港振興協会
財団法人名古屋港船員厚生施設運営会
名古屋港鉄鋼埠頭株式会社
財団法人名古屋港埠頭公社
名古屋港利用促進協議会
財団法人名古屋港緑地保全協会

(ま) _____

名古屋コンテナ埠頭株式会社
名古屋市
名古屋通関業会
名古屋日本船代理店会
財団法人名古屋みなと振興財団
名古屋臨海鉄道株式会社

(に) _____

ニシキコンサルタント株式会社
西松建設株式会社
日本工営株式会社
社団法人日本埋立浚渫協会
社団法人日本埋立浚渫協会中部支部
社団法人日本海上起重技術協会
日本海洋コンサルタント株式会社
社団法人日本港運協会
株式会社日本港湾コンサルタント
社団法人日本作業船協会
日本消波根固ブロック協会
社団法人日本船主協会
社団法人日本潜水協会
日本内航海運組合総連合会
株式会社ニュージェック

(は) _____

パシフィックコンサルタンツ株式会社

(ふ) _____

株式会社フジトランスコーポレーション
株式会社不動テトラ
株式会社ブリヂストン

(ほ) _____

ポートコンサルタント株式会社
株式会社ボルテック
株式会社本間組

(ま) _____

マリンテクノロジー株式会社

(み) _____

三井共同建設コンサルタント株式会社
みらい建設工業株式会社

(め) _____

名港海運株式会社
株式会社明佑工販

(や) _____

八千代エンジニアリング株式会社
弥富市

(り) _____

りんかい日産建設株式会社